

## 2. 札幌医科大学医学部（公立） Sapporo Medical University School of Medicine

〒060-8556 北海道札幌市中央区南1条西17丁目

<http://web.sapmed.ac.jp/>

電話011-611-2111

FAX011-612-5861

e-mail : kouhou@sapmed.ac.jp

### 1. カリキュラム全般について

#### A. 一般教育（教養）と専門教育との関係：

- 1) 学則上は一般教育（教養）と専門教育とを区別せず、6年一貫教育である。
- 2) 一般教育（教養）の学習は1、2年生のみではなく3年生以上でも行われる。
- 3) 専門教育（準備教育は除く）の学習は2年生から開始する。

#### B. 教授会は一般教育（教養）と専門教育とで常に合同で開催される。

#### C. 学生や教員や地域住民などに対し、医学部・医科大学としての一般目標や理念が印刷物や看板・ホームページなどのメディアで示されている。

#### D. 学生や教員が学習内容を予め知ることができるように、授業科目の学習目標（一般目標や行動目標）、授業内容、担当者などを印刷物（シラバス）ですべて示してあり、その印刷物を授業要目という。

#### E. 4年生大学既卒者（学士編入生）は卒業学部にかかわらずすべて1年生に入学する。

#### F. 1年生の入学時オリエンテーションは2日間行うが合宿ではない。

#### G. Early Exposure（医学教育の早い時期に医学・医療の場に接し動機づけを試みる教育）を行っている学年は2、3年生である。

##### その期間と内容：

2年生：4日間：施設体験実習

3年生：2日間：看護体験実習（病棟実習）

#### H. PBL/チュートリアル（小グループで行う問題解決型学習）が導入されている。コアタイムの時間は

4年生は、平均して週3時間×年間9回である。

自習用に割り当てられている時間は

4年生は、平均して週6時間×年間9回である。

チューターは学年により異なっていて一般教養系、基礎医学系、臨床医学系を問わない。

チューター養成のためのトレーニングプログラムや講習会などが行われている。

#### I. 細胞・組織レベル、ないしは臓器系統別の統合カリキュラムをすべてにわたり採用している。

#### J. 平成17年以降、大幅なカリキュラム改訂は、行われていない。なお、現行カリキュラムの特色は下記のとおりである。

- ・モデル・コア・カリキュラムを基本としながら、1年における21世紀問題群、1年～5年における医学概論・医療総論等、多様で自主性を促す本学独自のカリキュラムを設定している。
- ・5年は44週かけて全ての講座等をローテートする必修実習、6年は12週かけて必修選択実習、自由選択実習を行なうなど、充実した臨床実習のカリキュラムを組んでいる。

#### K. 今後のカリキュラム改訂は今のところ予定していない。

#### L. 現在学内で、医学教育について検討されている事項は下記の点である。

- ・入試、医学部と保健医療学部の共通教育、各種GP等についての企画立案、円滑な実施や改善方策の検討を行なう医療人育成センター（仮称）の設置が決定され、現在、そのセンターに係る設置要綱等、具体的フレームやスケジュールについて、検討が行なわれている。

## 2. 選択制について

専門教科について選択制を採用している

専門教科で選択制としている教科は下記のとおりである。

・臨床実習選択コース
------------

## 3. 一般教育（教養）について

- A. 医学部医学科以外の学部や学科のある大学に伺います。  
一般教育（教養）の授業は他学部（他学科）の学生と一緒にではない。
- B. 他大学との単位互換について認めていない。
- D. 一般教育（教養）部門では一部が選択科目で、それは一般教育（教養）の約54%である。
- E. 平成19年新生で、高等学校などで「生物」を履修していない学生の数は調査していないのでわからない。  
「生物」を履修しなかった学生に対して補習ないしは選択で授業をしている。
- F. 平成19年新生にはセンター試験が導入されていた。  
入学者のうち「生物」を選択していた学生は不明であった。

## 4. 基礎医学教室ないしは社会医学教室（研究室）配属について

- A. 学生が一時期、基礎医学教室ないしは社会医学教室（研究室）に配属されるシステムがあり、全員が  
4年生の時に平均して1週30時間×5週間配属される。

## 5. 臨床実習（外来実習、BSL、クリニカル・クラークシップを含む）について

- A. 臨床実習前に、まとまった形で医療面接・診察技法（例：臨床実習入門など）の学習を行っている。  
（16日間）  
身体診察の学習に医師や学生以外の標準模擬患者（SP）を導入してはいない。
- B. 臨床実習の実施学年とその期間は（早朝や時間外は省略）  
5年の時、1週30時間で、44週間である。  
6年の時、1週27時間で、12週間である。
- C. 臨床実習科目は全科目を必修としている。
- D. 大学の附属病院以外の施設（国・公・私立病院や保健所・老健施設などでの実習、国内外を問わない）  
で臨床実習を行っている。  
その期間は全部で56週で、そこで行う実習科目は（内科、外科、総合診療科ほか）である。  
この大学外の実習の場合の交通費は学生が自分で支払う。
- E. クリニカルクラークシップは臨床実習を行うすべての科で導入している。
- F. 臨床実習のための手引書は印刷物として配布されていて、それにはスケジュール、到達目標、医行為の  
範囲、評価法が記載されている。
- G. 臨床実習の評価として学習終了後に基本的臨床能力試験（OSCE）を行っている。  
臨床実習の評価結果は合否（進級）の判定（総括評価）に用いられる。  
そして不合格の場合は、不合格科目のみ再度臨床実習を行う。
- H. 臨床実習中の学生の安全管理対策については  
保険制度に加入している。  
ワクチン接種を行っている。

## 6. 学生の海外における実習について

- A. 学生の海外における実習は基礎医学実習のみを行う機会がある。  
期間は最長 基礎医学実習は6週である。

## 7. 評価について

- A. 進級判定が行われるのは1年終了時、2年終了時、3年終了時、4年終了時、5年終了時である。
- B. 成績の記録法は数段階制（優、良、可、不可、A、B、C、Dなど）を採用している。
- C. 卒業判定のための試験は行われていて、それは総合的な試験である。  
 時期は9月から10月まで、期間は6週間（長期休暇期間を除く）である。
- D. 6年生の10月以降には、IST（自主学習時間）が組まれている。  
 また、大学による国家試験対策のための特別な講義が行われることはない。
- E. 卒前教育に携わっている教員に対し、教育業績の評価が行われ、その評価を行うのは、学生である。  
 自己評価以外の評価結果は本人にフィードバックされる。  
 その評価結果は昇進などに関係しない。
- F. 過去2年間に、卒前教育全体に対する第三者評価が行われたことはない。

## 8. 教員について（医学部・医学科および大学院学生の教育を担当する教員）

### A. 教員数（平成19年12月現在）

		教養*	基礎**	臨床***	附属研究施設	その他	合計
常勤 (有給専任)	教授	6	10	20	5	6	47
	准教授	5	13	23	5	4	50
	講師	7	10	43	4	8	72
	助教	2	19	104	8	16	149
	その他		2		1		3
	合計	20	54	190	23	34	321

非常勤 (客員・無給を含む)	教授	22	34	98	3	24	181
	准教授		1	22		2	25
	講師	6	11	132		17	166
	助教		2			4	6
	その他						0
	合計	28	48	252	3	47	378

\* 教養の常勤者は医学部所属者のみに限る。総合大学で医学部所属者がいない場合は空欄とする。

\*\* 基礎は社会医学を含む。

\*\*\* 臨床は附属病院・分院を含む。

- B. 常勤の教員の任期制の制度を取り入れていない。
- C. 教員や臨床実習時の指導医の医療事故に対する対応策については、取り決められていて、何らかの保険制度に、任意で加入している。

## 9. 学生数（平成19年12月現在）

学年	総数		うち学士編入者数	うち今年度留年者数 (今年度のみ)	うち休学者数	うち外国人留学生	
		うち女子 人数					うち女子 人数
1	101	29				1	1
2	103	31		2			
3	100	44			1		
4	101	28		1		1	1
5	99	26					
6	104	36		1			
合計	608	194	0	4	1	2	2

10. 平成19年4月（今年）の医学部受験状況（編入は含まず、1年生のみ）

受験者数709名、合格者数100名、倍率7.09倍

入学者数100名、（定員100名、うち推薦入学者数20名）

入学者の状況：現役45名、1浪22名、2浪20名、その他13名、

定員外に別試験で入学した外国人学生1名、

センター試験を導入している

センター試験で理科を何科目課しているか

3単科目

12. 平成18年4月（昨年）の医学部受験状況（編入は含まず、1年生のみ）

受験者数687名、合格者数100名、倍率6.87倍

入学者数100名、（定員100名、うち推薦入学者数20名）

入学者の状況：現役43名、1浪28名、2浪12名、その他17名、

定員外に別試験で入学した外国人学生0名、

センター試験を導入している

13. 平成18年（昨年）の1年生以外の編入学状況

B. 編入学者地域わくについて

地域わくは無い。

今後どのように考えていますか。

今後の予定はない。

14. 授業時間配分

(1) 学期区分

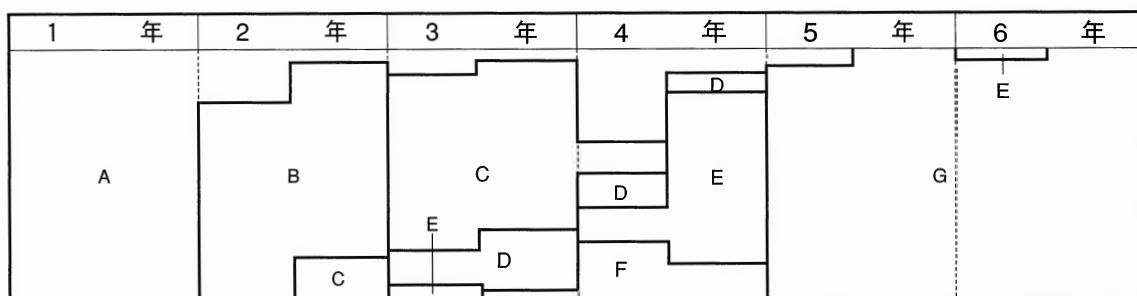
学 年	学期制なし	学期制あり		総時間数		
		2学期制	3学期制	講義	実習	PBL/ チュートリアル
1		○		780	203	
2		○		480	405	
3		○		657	203	
4		○		570	202	90
5		○		30	1320	
6		○		15	324	

（アーリーエクスポージャーは実習時間数に含める。）

(2) 土曜日の授業（講義または実習）は全学年ない

(3) 時間配分の概略図（授業区分のブロック図）

新カリキュラム（総合）



(註) A：教養教育科目、基本事項

B：医学一般

C：人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療

D：全身におよぶ生理的变化、病態、診断、治療

E：診療の基本

F：医学・医療と社会

G：臨床実習

15. 医学専門教育（専門課程）の教科別授業時間数

授業科目名	講義時間数	実習時間数	合計時間数
医学概論・医療総論 1	30		30
医学概論・医療総論 2		45	45
医学概論・医療総論 3		45	45
医学概論・医療総論 4	15		15
医学概論・医療総論 5	30		30
PBL チュートリアル	90		90
研究室（基礎）配属	150		150
細胞・組織の基本構造と機能	45		45
組織・各臓器の構成、機能と位置	45		45
個体の調節機構とホメオスタシス	45		45
個体の発生	30		30
生体物質の代謝	30		30
遺伝と遺伝子	30		30
生体と微生物（含む 寄生虫）	75		75
免疫と生体防御	45		45
生体と薬物	15		15
原因と病態（含む 腫瘍）	60		60
肉眼解剖実習		135	135
組織実習		90	90
微生物学実習		45	45
生化学実習		45	45
生理・薬理実習		45	45
血液・造血器・リンパ系	30		30
神経系（除く 感覚器・高次機能）	75		75
皮膚系	30		30
運動器	23		23
循環系	75		75
呼吸系	45		45
消化器系（含む 肝胆膵）	75		75
腎・尿路系	30		30
生殖機能（含む 乳房）	30		30
妊娠と分娩	15		15
内分泌・栄養・代謝系	45		45
眼・視覚系	23		23
耳鼻・咽喉系	30		30
口腔外科	15		15
精神系（神経高次機能を含む）	45		45
感染症	45		45
免疫・アレルギー疾患	38		38
物理化学的因子による疾患	30		30
成長と発達	30		30
加齢と老化	30		30
人の死・死と法	30		30
病理学実習		90	90
神経生理実習		45	45
症候・病態からのアプローチ	30		30
薬物治療の基本原則	30		30
医薬品の適正使用	8		8
臨床検査	15		15
機器診断学	8		8
外科治療・周術管理	15		15
麻酔	15		15
医用機器・輸液・移植	15		15

授業科目名	講義時間数	実習時間数	合計時間数
リハビリテーション・介護	23		23
緩和医療	8		8
統合医療	15		15
放射線診断及び治療	15		15
CPC・病理示説	15		15
臨床入門		135	135
社会・環境と健康	30		30
疫学と予防医学	30		30
生活習慣と疾病	15		15
保健、医療、福祉と介護の制度	23		23
EBMと臨床研究	15		15
医事法制	8		8
社会医学実習		90	90
臨床実習必修コース		1320	1320
臨床実習選択コース		324	324
合 計	1857	2454	4311

各学年における講義時間数、実習時間数について

	講義時間数	実習時間数	合計時間数
1 学年	15		15
2 学年	480	405	885
3 学年	657	203	860
4 学年	660	202	862
5 学年	30	1320	1350
6 学年	15	324	339
合 計	1857	2454	4311

#### 16. その他の教育内容

独立した科目として授業が行われている科目：

医学史学（必修）、行動科学（必修）、医学外国語（選択、必修）、医の倫理（必修）、緩和ケア（必修）、医療情報学（必修）、高齢医学（必修）、在宅ケア・介護（必修）

独立した科目として授業が行われていない科目：

人類遺伝学（臨床遺伝学）、医用（電子）工学、医療福祉学（医療社会福祉学）、医療安全、医療経済、プライマリ・ケア、家庭医学、臨床医学、人間関係学、医療保険

#### 18. MD-PhDコースを設置している。

（在籍者は、26名。）